

# 一次エネルギー消費量の算定における暖房負荷計算の 適正化について

---

# 放射・上下温度分布が暖房負荷計算に与える影響の考慮

- 以下のような条件の違いによる暖房負荷への影響を考慮。

- ①暖房方式による壁面、床面温度の違い
- ②暖房設備の種類による上下温度分布の違い

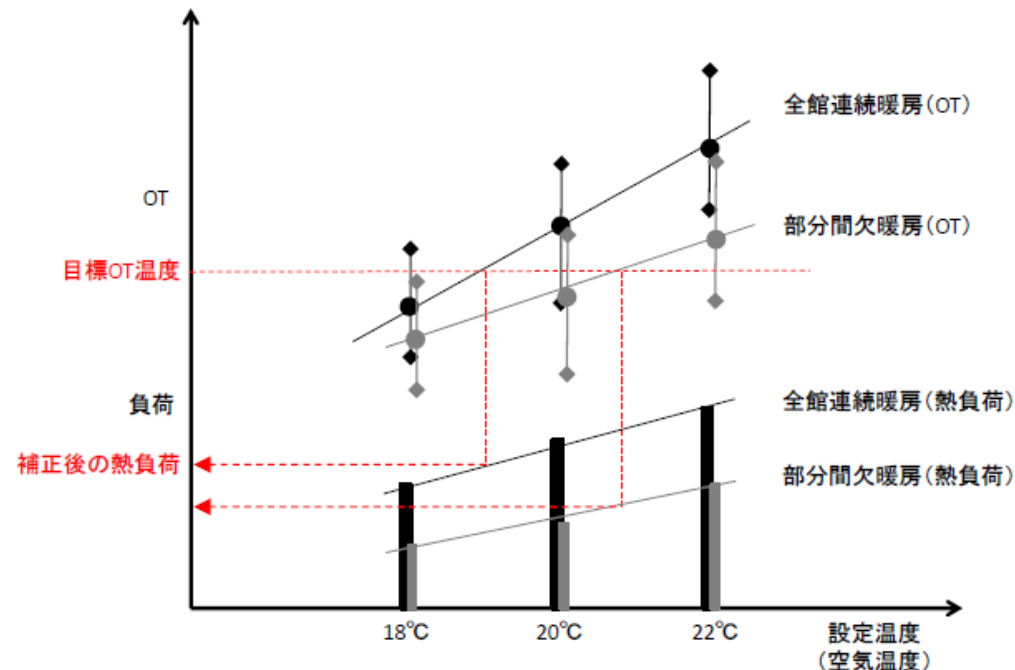
$$\text{補正負荷} = \text{暖房負荷 (設定温度 } 20^{\circ}\text{C)} \times \text{補正係数 (放射、上下温度分布を考慮)}$$

## 【補正係数(放射)】

連続運転と部分間歇運転では壁面の温度が異なるため、作用温度(放射の影響も考慮した温度:OT)で同条件とすることを考えると連続運転は部分間歇運転に比べ、設定温度を低めにすることができ、その効果を考慮する。また、床暖房については、床面からの放射による効果も考慮する。

## 【補正係数(上下温度分布)】

室内に上下温度分布が形成される場合(床暖房以外の空調方式の場合)に、設定温度を高めに設定しなければならない影響を評価。



# 暖房負荷の補正係数

## <補正係数の傾向>

- 躯体の断熱性能が高いと補正係数は小さくなる。
- 居室間欠、居室連続、住宅全体の順に補正係数は小さくなる。
- 床暖房の場合、エアコンの場合に比べ補正係数は小さくなる。
- 床暖房敷設時には敷設率が大きいと補正係数は小さくなる。

## 断熱性能、空調方式と補正係数の関係

